

# 日立ヤングリーダーズ・イニシアチブ ～アジア次世代リーダーの発掘と育成～

(株)日立製作所 グローバル事業本部 渉外部  
部長代理 久保田慎一

日立製作所は、1910年の創業時から「優れた自主技術・製品開発を通じて社会に貢献する」という基本理念を掲げ、事業を推進してきた。社会貢献活動についても、良き企業市民として社会の要請と信頼に応え、豊かな人間生活とより良い社会の実現に貢献することを理念としている。活動は「教育」、「環境」、「福祉」の3分野を重点領域とし、次代の変革を担う「人」を育む活動を中心に、様々な社会貢献活動を国内外で展開している。

## 次世代リーダーの育成が急務

現在のアジアのリーダーたちは、アジアにとって最も大事な課題は次世代リーダーの発掘・育成であると考えている。この要請に応え、その思いに共鳴して同地域の発展に貢献すべく始めたのが日立ヤングリーダーズ・イニシアチブ (HYLI) である。



(写真・左) フォーラム後の記者会見で発表する参加学生  
(ベトナム・ハノイ)

(写真・右) フォーラムで講演者へ質問する参加学生

日立は、1990年代に ASEAN 諸国に製造拠点をシフトしていく中で、現地で良き企業市民として貢献していくために、どのような社会のニーズがあるかについて東南アジアの社会貢献・慈善活動家たちにインタビュー調査を実施した。調査結果は次世代リーダーの育成が急務だという声が多く、そのニーズに応えるために HYLI を長期的な取り組みとして企画・立案し、1996年から定期的実施している。その第8回目を2007年1月にベトナム・ハノイで実施した。

## 白熱する論議、そして実体験

本プログラムはアジアの次世代を担う若手リーダーの発掘・育成を目的に、従来のインドネシア、日本、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイに、第8回目よりベトナムを加えた7カ国から選抜された大学生（各国4名、計28名）を中心に位置付け、参加国の一つに集って5日間にわたりフォーラム・学生分科会・地域貢献活動を実施するものである。

参加学生は、7カ国を代表する大学から推薦され、教育関係省庁や大学、日立の各国代表者からなる各国選考会を毎回設置し、厳選なる審査を経て選ばれる。2日間のフォーラム、それと並行した昼夜にわたるテーマごとの分科会での白熱した討議を経て、記者会見ではヤングリーダーが分科会ごとに提言を発表、さらに後半の2日間は外に飛び出して、地域社会への貢献活動をおこなう機会を提供している。

毎回アジア各国に共通する問題をテーマとして取り上げているが、第8回目となる今回は、「アジアの国際競争力強化への挑戦－責任ある国際社会の一員として」をメインテーマに、「中国およびインドの経済的発展とアジアとの関係」、「アジアの持続的発展に向けた水資源管理への挑戦」をサブテーマとして取り上げた。フォーラム初日の主賓兼基調講演者にはベトナム前副首相のヴー・ホアン氏を、また、2日目の基調講演ではフィリピンのカエタノ上院議員を迎えたほか、タイのスクンパン元外務副大臣、ベトナムのトン・ヌ・ティ・ニン国会対外委員会副委員長、マレーシアのダトゥ・ケイズルー天然資源環境灌漑下水局長、京都大学の藤井滋穂教授など、各界で活躍する第一人者8名をパネリストにお招きした。

フォーラムは両日も約300名の聴衆でほぼ満席となった。スピーカーに対して参加学生や一般聴衆より多くの質問がなされ、活発な質疑応答がおこなわれた。プログラム後半の地域社会への貢献活動では、HYLI参加学生による孤児養護施設（SOS ヴィレッジ）への教育支援活動を実施した。参加学生がSOS ヴィレッジの子どもたちと共に、浄水場、運河、湖などでの水質調査などをおこない、水に係わる環境問題について共に考え、最終日には自分たちに何ができるかを発表してもらった。SOS ヴィレッジの子どもたちとの触れ合いは、参加学生にとって、将来のリーダーとしての社会的見識・責任感を高める上で意義ある経験となったと考える。

## アジアの発展を担うネットワーク

このプログラムにはこれまで196名のヤングリーダーが参加し、78人の著名なリーダーが講演している。このネットワークは回を重ねるごとに広がっており、日立が各国でアレンジする同窓会などでそのネットワークの維持・強化も図っている。

過去の参加者からは、「学生時代にこのプログラムに参加できたことが自分の進路の選択にも大き



川辺で水質調査をする参加学生と子どもたち

く影響した」、「ASEANの学生との交友関係が最大の財産になっている」、「今回築いたネットワークを今後も拡大したい」、「アジアの視点から自分の中に持ち続けたい」などの感想を聞いている。今回はベトナムを加えての初めての試みであったが、ベトナムでのAPEC会議（昨年11月）、WTO正式加盟（今年1月）直後という、同国のグローバル化へ向けた機運が高まっている絶好のタイミングに、アジア7カ国の学生がアジアの将来に向けて提言をおこなうという本プログラムを開催できたことで、現地での関心は予想していた以上のものとなった。私も事務局として参加学生と接する中で、彼らのアジアに対する熱い思いが感じられ、アジアはこれからも大きく発展していくのだということを感じられる1週間であった。

毎回参加学生は非常に密度の濃い1週間を過ごしている。その分その後の交流も長く濃いものとなり、そのネットワークは必ず今後のアジアの発展を担っていくようになるであろう。過去の参加者の中からは、すでに地方議員や弁護士が生まれている。これから10年もすれば、このネットワークから国会議員や各分野のリーダーが育っていくことと思う。日立は、この若い人脈が、アジアの明るい未来を築いていくことにこのプログラムを継続していくことで貢献し、企業市民としての責任を果たしていきたいと考えている。 ■

◆日立の社会貢献活動

<http://www.hitachi.co.jp/lnt/skk/>